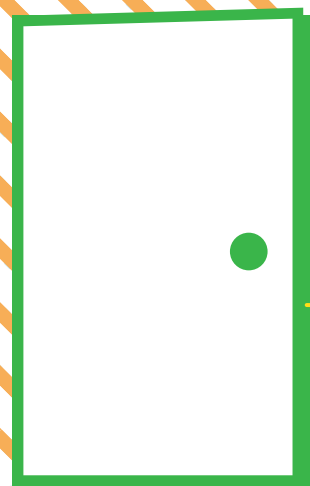


IRIYA - MINAMISANRIKU

YES FACTORY

YES工房グループ事業報告書

2011-2014



YES 工房とつながる皆様

震災後の混乱のなかで、とにかく何かしなくてはと始めた活動も皆様のおかげでこうして4年目を迎えることができました。

これまでの歩みを振り返り、更にこれからに活かすためこの報告書を作ることにいたしました。

今思い出されるのは、震災直後の皆様のあたたかいご支援です。

「自らの手で作り出す。」

あの頃は、震災で誰もが大切な何か・誰かを失くし絶望感に打ちひしがれていたように思います。とにかく、これから先がどうなるか、まるで見えない状況でした。

でも敢えて一歩を踏み出すことができたのは、全国の心ある方々が背中を押してくれたからでした。物資や資金、ノウハウのご提供、何よりあたたかいメッセージに私たちは本当に励まされました。

オクトパス君の色塗りや飾り旗を折る作業は、無心になってできる作業として悲しみを癒す効果を生み出しました。1日何もしないで過ごすのではなく、毎日仕事があること自体が、生活のリズムを作ってくれました。そして仲間と過ごす毎日が日常となり、皆で居場所を作り上げました。

そして何より「誰かがどこかで商品を待っていてくれる」そのことが、生きていく自信に、前を向くエネルギーにつながっていったように思うのです。

当時はYES工房が今のような場所になるとは、近所の人たちも思いもしませんでした。今もありがたいことに、全国各地や海外からも、復興の現場としてお客様が訪れてくれます。ここで多くの出会いが生まれ、新しいアイデア、新しいビジネスが羽ばたいていきました。

私たちは多くのものを失って、そして本当に大切なものに気付くことが出来ました。
それは失いたくない地域の誇り、人と人のつながり、本当の豊かさ……。

私たちは、オクトパス君という仲間を通して、日々生み出されるグッズを通して、皆さんと、悲しみと喜びを、希望を、共有しています。

今こそ。
私たちは挑戦を続けます。

2014年10月8日 YES工房スタッフ一同

夢見るタコの誕生秘話

震災後の絶望の中で出会い、YES工房の立ち上げに尽力した3人。多くのものを失った人々の作業の場として生まれたYES工房の立ち上げ秘話と、東北の地域連携の核として多くの役割を担っていく、将来のビジョンを語りました。



高橋修

南三陸復興ダコの会 | 会長



柏木正博

大正大学 | 理事・事務局長

「皆さまのご支援で、今のYES工房があります」

阿部 YES工房は、大正大学さんを始め、全国の大勢の方から応援いただいて、このような事業をさせていただいているので、社会に対する説明責任というか、ご報告をしたいと思っています。

高橋 まずは、支援者の方々への御礼が一番大切なことです。YES工房を立ち上げられたのは、何もかも流されて絶望していたときに出资方式で大正大学さんや関係者、工房発足後2ヶ月で製造もおぼつかないところに1000個も注文してくれた人など、たくさんの支援のおかげなんです。夢だけで夢を買ってくれるっていうのは、今思えば信じられない話です。支援をしてくれた人に敬意を払うというのが、うちの工房の基本です。

柏木 最初の出会いは、震災直後に、大正大学の学生ボランティアを入谷地区で受け入れてもらったことで、そこから学生を絡ませて一緒に進めてきたんですね。福興市でタコ神輿を出したり、中尊寺に金のオクトパス君を奉納したり、振り返ってみるといろいろやりましたね。

「仕事はみんなに、前に進むエネルギーをくれた」

高橋 YES工房は、震災で仮設に入った人が、何も考えずに没頭できることがないか探して、文鎮の色塗りだとか、オクトパス君を製作するということから立ち上げたんですね。支援物資もたくさんいただいたけど、人間いただくのを待つだけだと後ろ向きになる。仕事をしていると「今日は何個作る」「何個買ってもらわなきゃならない」と変わってきます。さらには「こんなの面白いんじゃないか、売れるんじゃないか」という作る思い、販売する思いがどんどん出てくる。前に進むエネルギーが出てくるんですね。それが生活を取り戻す原動力になる。

阿部 YES工房は震災後3年でオクトパス君7万個の販売を達成しました。

高橋 設立当初に柏木さんが売上目標10万個を打ち出した時は開いた口が塞がらなかったですけども、まさか本当にこんな実績が出るとはね。本来の合格祈願グッズとしても注目されたということですね。大正大学と一緒に新聞に載ったというのは、すごくありがたかったです（2011年8月11日、朝日新聞に掲載）。

東京のいろいろな方にオクトパス君の説明をすると、最初に笑うんですね。ぷっと笑うんですよ。笑いながら話が進むので商談もやりやすいというか。震災当時によくこういうふざけたものを考えるなって、まず印象に残るんですね。オクトパス君はもともと阿部が震災前に考えたんですが、震災後アイデアが爆発したみたいになって、アイテムをぼこぼこ増やしましたが、それがうまくいったのかなと思ってます。

柏木 一つのキャラクターからどんどん展開できるというのは、本物でないといけないことですね。うまく展開できないキャラクターだったたくさん存在しているわけですから。

高橋 着ぐるみは本当に引っ張りダコになって、町内はもちろん仙台とか関東にもどんどん出て行ってますね。今流行なんですね。

「支援者のネットワークをもっと広げて、町を再建する力を生み出していくことを期待したい」

高橋 被災した当事者が発信したというのが、ひとつ大事なんです。当事者以外が発信しても、本当の意味では被災地は儲からない。工房の人間は、田舎ではこういう事業は成り立たないと思ってたんです。それが大正大学はじめ、多くの人に関わる事によって展開できている。次世代を担う人たちが自分で考えたアイデアで成長していくというのは、この被災した町を再建するのにはいちばんの、理想の形ではないかと思っています。現在直面している深刻な問題は、緊急雇用の助成が来年（2015年）3月までということですね。これからは利益を上げて継続していかなければなりません。いま仕事をしている人間はすごく充実して、楽しんでやっているので、なんとかしたいと試行錯誤する毎日です。

震災後3年を迎えて、これからは企業が復興をどう応援するかが課題になってくる。Win-Winじゃないと継続は難しい。だから来ていただいた方に、結果を見て実感していただけるのが一番いいと思うんですね。そのためには足りない部分もあるし、これからやっていくこともある。ただ、まずはそういうきっかけをつなげたっていうのがすごく大事なのかと。

柏木 当初、オクトパス君は、たぶん10月くらいから売れなくなると予感がありました。受験シーズンには持ち直さだろうけど、いずれ反応がなくなるだろうと。それで、これはもう学生を連れてくしかないということで思いついたのが、この研修センター建設のきっかけなんですね（南三陸まなびの里「いりやど」。2013年3月設立。高橋氏は理事を務める）。こちら資金面で安定させる必要があったから、いまは大正大学が経営に入ってますが、いずれ軌道に乗ってきたら、地元の人中心に運営する状態がいいと思うんですね。例えばYES工房と研修センターを一体の組織にして地元の人が経営する。大正大学は側面からの支援として学生を連れてくる。そうすれば、YES工房と研修センターを中心に六次産業化みたいな展開ができる。たぶん2、3年後にはそういうことになるんじゃないかと思っています。

阿部 工房の利益を「いりやど」に投下する、あるいはその逆をうまくやっていけば、事業として成り立つし、雇用の安定にもつながって行くと思うんです。交流人口を増やせば経済効果につながるし、地域も受け入れによりブラッシュアップされると思ってたんですけど、それ以外でも大学関係者とか企業の方とか選りすぐりの人が来るから結構勉強になる。知的財産も持ってくるんですよ。そこがいいんです。お金が入る仕組みだけでは不完全。どれだけの知的財産が定着するかが重要だと思っています。

本日はYES工房の成り立ちとか、タコ（オクトパス君）の話だったんですけども（一同笑い）。「いりやど」と連携しつつ、支援者のネットワークを広げて、今後も挑戦を続けていくと。

ありがとうございました。

2011

- 3月 東日本大震災発生。大津波により、南三陸町が壊滅的被害を受ける。
- 4月 大正大学ボランティア（12日間のべ130名）の受け入れ以来、多数の大学や団体を受け入れるようになる。
- 5月 「ゆめ多幸鎮オクトパス君」の製作・販売を開始。
※第2回南三陸復興市を機に「オクトパス君」の製作を開始。当日は290個を売上げる。
- 6月 「南三陸復興ダコの会」設立。
- 7月 廃校となった入谷中学校をリニューアルし、「入谷YES工房」をオープン。
「兵左衛門」（塗箸メーカー。本社：福井県）の袋詰め作業を受注（集合内職）。
平泉世界遺産登録を祝し、金の「オクトパス君」を中尊寺へ奉納。
フジテレビ「27時間テレビ」で取り上げられ、大きな反響。
農園コミュニティー推進事業開始。
- 8月 南三陸町内の宿泊施設「ホテル観洋」にて取扱い開始。
以後、取扱店舗数は全国約60店まで拡大。
- 9月 東北復興リーダー支援プロジェクトより右腕の派遣を受ける（右腕派遣とは、被災地の復興に向けた事業・プロジェクトに取り組むリーダーのもとに、有能かつ意欲ある若手人材を「右腕」として派遣するプロジェクト）。
Twitterにてオクトパス君（@tacolog）つぶやき開始。
まゆ細工チーム発足（南三陸町入谷地区は、伊達藩養蚕の発祥地で養蚕業が盛んに行われた）。
- 10月 「南三陸復興ダコの会」Facebookを開始。
- 11月 入谷八幡神社にオクトパス君のブロンズ像を奉納。
除幕式執り行われる。
- 12月 志津川湾で獲れた真ダコとオクトパス君を合わせた「タコ×タコセット」を製作・販売。

2012

- 1月 JR東日本ポスターにオクトパス君が大きく起用され各駅9900箇所で掲示された。
- 2月 南三陸町志津川地区に仮設商店街「南三陸さんさん商店街」がオープン。
観光協会をはじめ、各店頭にオクトパス君が並ぶ。
- 3月 アーティストGackt氏とコラボレーションした「ガクトパス君」を製作。
- 4月 「フロンティアジャパン」（ノベルティー製作会社。本社：東京都）とのタイアップ事業開始。
- 5月 震災被害木を使用した「オクトパス君木製ピンバッジ」を製作・販売。
- 7月 オクトパス君の「ストラップ」「マグネット」「ぬいぐるみ」等を製作・販売。
オクトパス君着ぐるみデビュー以来「ご当地キャラ」で地域おこし。
町内外のイベントに着ぐるみオクトパス君が参加、招待されるようになる。
- 10月 オクトパス君の誕生会（3歳）。
「スマホスタンド」「ブックマーク」「ポストカード」を製作・販売。
- 11月 ホームページリニューアル。
「オクトパス君手ぬぐい」を製作・販売。
- 12月 2011ゆるキャラグランプリ1位の「くまモン」がYES工房に登場。
オクトパス君とコラボ。

2013

- 1月 「オクトパンツ」を販売。新デザインの「オクトパス君ピンバッジ」を製作・販売。
- 3月 南三陸まなびの里「いりやど」オープン。オクトパス君せんべい製造工場開設。
- 5月 「オクトパス君マスコット」を製作・販売。
南三陸町へ南米チリからモアイ像寄贈。
モアイとのコラボグッズ製作・販売。
「オクトパス君せんべい」製造・販売。
- 6月 動画「オクトパス君ちゃんねる」YouTube上で配信開始。
- 8月 「ゆめ多幸鎮オクトパス君」販売数60,000個突破。
- 10月 オクトパス君誕生会（4歳）。
- 11月 南三陸杉を使用した「5を書く定規（お守り）」を製作・販売。
- 12月 陶器製の貯金箱「貯金ダコ」を製作・販売。
三陸自動車道トンネル工事貫通点採取「貫通石（お守り）」を製作・販売。
合格祈願の縁起ものを5点詰め合わせた「Pass Pass Happy セット」を製作・販売。

2014

- 1月 全国紙にオクトパス君が取り上げられる。
1,000件にのぼる注文が殺到。
- 2月 「ゆめ多幸鎮オクトパス君」販売数70,000個突破。
オクトパス君LINEスタンプが登場（期間限定）。
- 3月 新企画合格エピソード収集開始。
YES工房パンフレット作成。
- 5月 「ビームス」×「ヤフー」コラボ企画、
「KENDAMA TOHOKU」にオクトパス君参加
（KENDAMA TOHOKUとは、東北各地の工房やブランドが行う、ものづくりとクリエイターデザインを掛け合わせたけん玉、雑貨製作の企画）。
- 6月 8色のお菓子風のオクトパス君「タコロン」製作・販売。
- 7月 オクトパス君とモアイの「金銀ピンバッジ」製作・販売。
- 10月 オクトパス君の「きらきらせんべい」製造・販売。
スレート（粘板岩）製の合格絵馬「スレートde合格絵馬」製作・販売。



about YES FACTORY

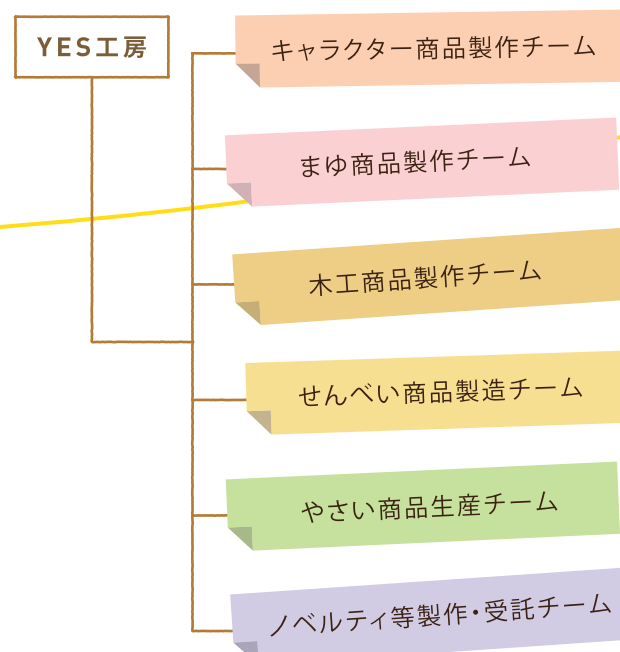
YES工房について

震災直後の混乱のなかで、町が活気づくためには生き生きと働ける環境が必要であると、雇用促進・地域振興のためYES工房は設立されました。

南三陸を元気にするために、町の名産であるタコをモチーフにした復興イメージキャラクター「オクトパス君」のグッズ製作・販売などを事業化しています。その他、関連事業として、震災で職を失った住民を対象とした集合内職を運営する「手作りセンター推進事業」や、耕作放棄地を活用した「農園コミュニティ推進事業」などを展開し、里山を核とした地域づくりを推進しています。主力商品である「ゆめ多幸鎮オクトパス君」を販売した売り上げの一部を義援金として、被災3県（岩手、宮城、福島）と南三陸町に寄付しています。



TEAM FORMATION



FLOOR GUIDE



OCTOPUS-KUN

キャラクター商品

コミュニケーショングッズで日本を元気に



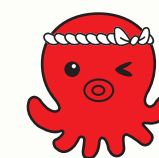
OUTLINE

- **事業名**
復興キャラクター商品開発及び販売促進事業 6名
- **発足日**
2011年6月11日
- **発足のきっかけ**
東日本大震災後、町の復興に向けたシンボルキャラクターとして展開するため発足
- **業務内容**
キャラクターグッズの製作・販売/イベント出演/地域復興



活動風景

南三陸を明るく元気にするキャラクター、オクトパス君グッズの企画からデザイン、製作、販売までを担当しています。2011年のタコの会発足以来、着々と増えてきたオクトパス君グッズは、なんとその数50種類以上（販売終了したもの含む）。店舗兼作業場では、お客様と交流しながら、連日たくさんの商品を製作しています。オクトパス君の着ぐるみも作成し、町内外のイベントに積極的に参加。子どもたちから大人気のオクトパス君は南三陸町のPRに大活躍しています。さらにYouTube上に『オクトパス君ちゃんねる』という専用ページを開設。イベントや、町内の店舗、施設を訪れた際の様子などを、楽しい動画で全世界に発信しています。合格祈願のキャラクターとしても知名度を上げつつあり、毎年受験シーズンがタコの会一番の繁忙期です。



オクトパス君誕生秘話

南三陸町志津川湾の名産品であるタコをモチーフに、合格祈願の“置くとパス”する文鎮として2009年に誕生。南三陸復興タコの会結成後は内陸の入谷地区に拠点を移し、町を明るく元気にするキャラクターとして活躍中です。

COCOON

まゆ商品

OUTLINE

●事業名

手作りセンター推進事業（cocoon） 4名

●発足日

2011年7月1日

●発足のきっかけ

雇用促進と南三陸町入谷の独自文化である繭を使った製品を販売し、文化の継承のため発足

●業務内容

繭を使用した製品を製作・販売

活動風景

南三陸町の入谷地区は、かつては養蚕で栄え、宮城県を代表する絹の産地でした。現在は養蚕農家の数は減ってしまいましたが、YES工房にはまゆ細工の文化が受け継がれています。4名のスタッフが、仕入れたまゆの選定から染めの作業、加工までを手掛け、製作されたグッズはいつでも大好評です。それぞれの個性が活かしたカジュアルなまゆグッズは、伝統工芸の枠にとらわれることなく、老若男女問わず大変受け入れやすいものとなっています。また、色とりどりに染められたまゆ玉や試作品が並べられた作業スペースは可愛らしく、工房を訪れる方々の目を楽しませています。スタッフの指導のもとまゆ細工体験などもあり、手作りの楽しさを伝える活動も行っています。商品の量産は難しいのですが、より多くの人たちにまゆの魅力が伝わるよう、販路の拡大を目指しています。

カワイイ繭でみんなのハートを元気に



WOODWORK

木工商品

南三陸町の間伐材を利用して森を元気に



OUTLINE

●事業名

復興キャラクター商品開発及び販売促進事業 2名

●発足日

2011年7月1日

●発足のきっかけ

雇用促進と南三陸町の間伐材、利用促進のため発足

●業務内容

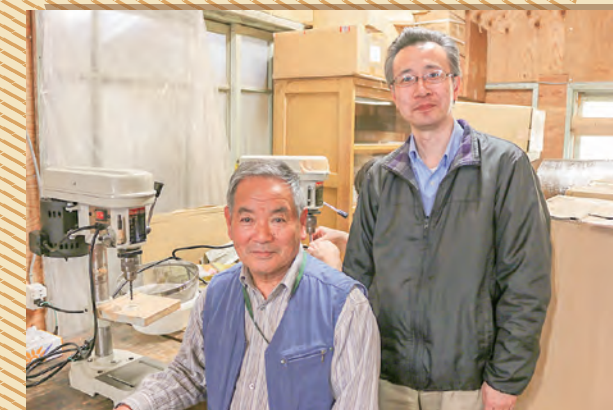
ノベルティグッズ製作・販売

オリジナルグッズ製作・販売



活動風景

海のイメージが強い南三陸町ですが、緑にも恵まれ、町の面積の約8割を森林が占めています。その豊富な資源を活用するため、YES工房の木製商品には、主に南三陸町の間伐材を使用しています。発足当初は震災で被害を受けた塩害木なども使用し、スタッフが手作業で加工した商品が中心でしたが、2013年にはレーザー加工機を導入。安定した品質の商品を大量生産することも可能となりました。工房で取り扱うグッズの製作の他、外部からの注文を受け、オリジナルの記念品やノベルティグッズの製作も行っています。デザインやロット数など柔軟な対応ができ、小さな工房ならではの強みとなっています。商品製作の際に発生した廃材は、被災地を訪れる学生のレクリエーションに使用されたり、薪木を使用している地域住民の家へ配られるなど、最後まで大切に活かされています。



RICE CRACKER

せんべい商品

OUTLINE

- **事業名**
オクトパス君せんべい製造・販売 2名
- **発足日**
2013年3月11日
- **発足のきっかけ**
オクトパス君を活用して、南三陸産の食をアピールするために発足
- **業務内容**
せんべいの製造・販売

活動風景

南三陸の素材にこだわって、何度でも繰り返しご購入いただける商品の開発を目指し、南三陸産の米とタコを使用したせんべいを生産しています。作業中、工場内は大変な高温になるため、夏場などは気温が上がる前の早朝から工場を稼働させています。オクトパス君のモチーフでもある志津川湾のタコは、南三陸町を代表する名産品のひとつです。やわらかなタコはせんべいに加工するのは難しく、現在の味に辿り着くまでには多くの試行錯誤がありました。完成したせんべいは爆発的なヒットを記録し、2013年のオクトパス君グッズ売上個数ランキングでは、主力商品の文鎮を抜いて第2位に輝きました。南三陸の魅力を伝えるお土産としての人気を得つつあり、イベント限定の味付けや、星形、ハート形などの見た目も楽しいせんべいの生産も手掛けています。

南三陸産の米とタコで胃袋を元気に

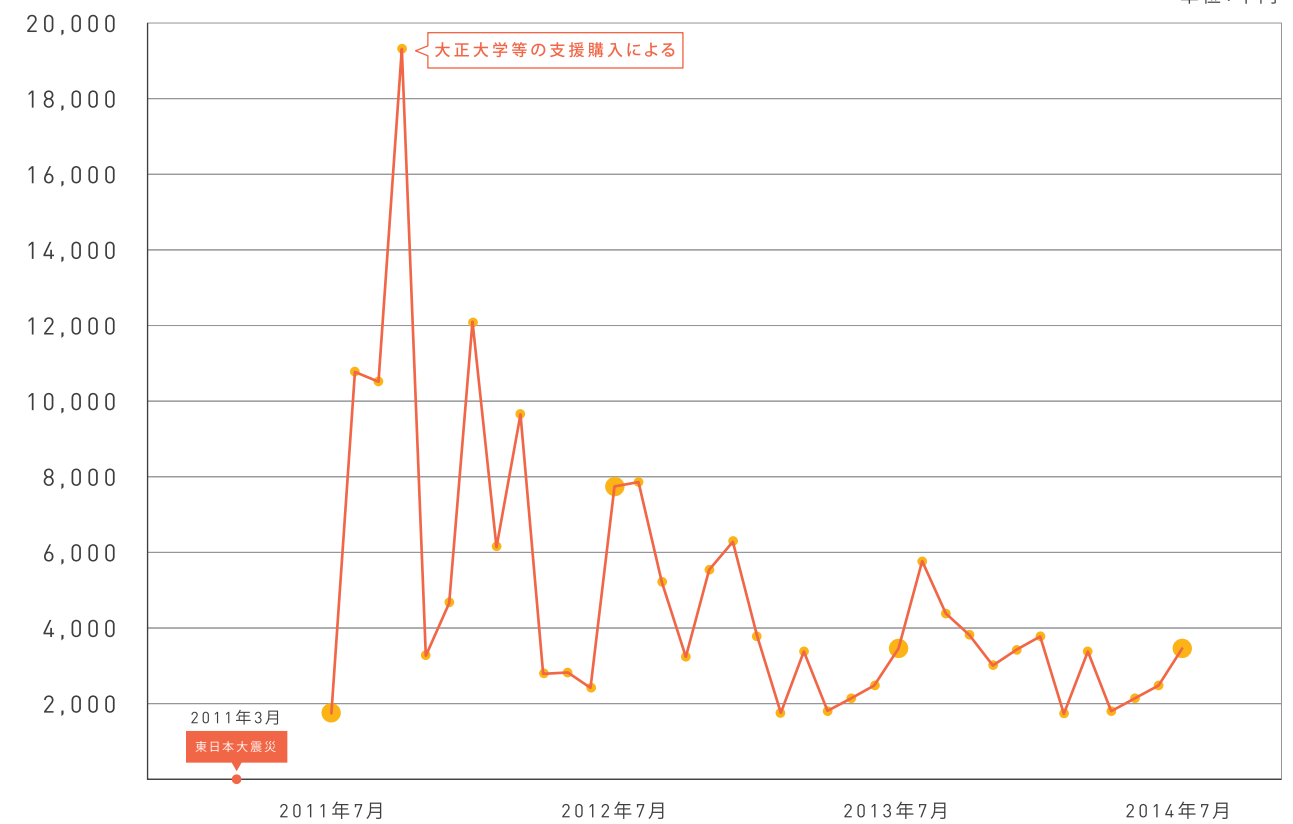


ACTIVITY REPORT

財務・業績

▼ 売上推移

単位：千円



2013 RANKING

ー 販売個数ランキング ー

1 オクトパス君ストラップ



2 オクトパス君せんべい



3 ゆめ多幸鎮



4 木製ピンバッジ



5 絵馬ストラップ



▼ 貸借対照表

2013年12月期

科目	当年度
◆ 資産の部	
1. 流動資産	
現金及び預金	13,155,439
売掛金	3,049,562
製品	4,075,847
半製品	3,123,576
立替金	259,200
前払費用	60,000
未収入金	122,049
流動資産合計	23,845,673
2. 固定資産・その他固定資産	
建物	2,163,210
建物付属設備	589,960
機械装置	2,456,069
車両運搬費	865,307
工具器具備品	1,359,002
預託品	8,830
その他固定資産合計	7,442,378
固定資産合計	7,442,378
資産合計	31,288,051
◆ 負債の部	
1. 流動負債	
買掛品	1,231,947
未払金	1,403,773
未払費用	1,146,305
未払法人税	2,279,500
未払消費税等	794,000
前受金	3,500,000
預り金	139,080
流動負債合計	10,494,605
負債合計	10,494,605
◆ 正味財産の部	
1. 指定正味財産	4,575,720
2. 一般正味財産	16,217,726
正味財産合計	20,793,446
負債及び正味財産合計	31,288,051

VEGETABLE

やさい商品

野菜づくりで土地と人を元気に



OUTLINE

- **事業名**
農園コミュニティ推進事業 5名
- **発足日**
2011年7月1日
- **発足のきっかけ**
耕作放棄地を活用し、仮設住宅入居者の生きがいとコミュニケーションづくりのため発足
- **業務内容**
農作物生産(ネギ・大豆・じゃがいも・トウキ等)・販売

活動風景

工房がある南三陸町入谷地区の耕作放棄地を利用し、季節の野菜を生産しています。スタッフは少数ですが、大手企業の協賛により、畑に定点カメラを設置して、FacebookなどのSNSで活動の様子を広く発信しています。震災後に初めて農業に携わったというスタッフもあり、自然や土に触れることが心の癒しにも繋がっています。主な農産物は薬草のトウキと野菜のねぎで、特にねぎはこれからの南三陸町を代表する作物になることを期待されています。ボランティアも広く受け入れており、自然豊かな南三陸町の魅力を体感してもらうと共に、地元スタッフと町を訪れた人たちとの交流の場としても活躍しています。生産から加工、流通、販売まで一貫して行う六次産業化を目指しており、農業への付加価値を高めていくことを目標としています。



SUPPORTER

手づくり支援

居場所づくりで地域を元気に

OUTLINE

- **事業名**
手作りセンター推進事業(内職) 8名
- **発足日**
2011年7月1日
- **発足のきっかけ**
町内外の企業からの受託事業を受け、雇用と居場所づくりのために発足
- **業務内容**
町内外の事業者から手作業に適した業務を代行

活動風景

工房の2階をメインの作業場としており、主にレーザー加工機で製作された木製商品の検品、組み立て、梱包の作業を行っています。町内外の企業・団体からの受託によるオリジナルグッズや震災復興のチャリティグッズの他、大手企業の販促品や有名ハリウッド映画公開記念のノベルティを手掛けた実績もあり、内職チームが手がけたアイテムは日本中のさまざまな場所で活躍しています。一度に数千、数万単位の商品を取り扱う場合もあり、商品ごとに異なる作業内容を、全員が正確に把握・分担し、僅かな傷や凹みも見逃さない精緻さで、品質の向上・維持のために日々努力を続けています。チームは町内の女性たちで構成され、休憩時間には、作業中の真剣さとは打って変わった明るい笑い声を届けてくれる、工房のムードメーカーのような存在でもあります。



楽しいひとときを過ごすことができました。
故郷に帰ったような思いでした。

京都府在住 女性

メーが自らの生き方、命について考え、人と出会い
語り合い、心を合わせると、大きな力になれる。

京都府在住 男性



YES工房8つの心得

- 感謝** の気持ちを忘れず、社会活動で恩返し。
- 笑顔** で挨拶、笑顔は年中無休。
- 交流** を積み重ね、コミュニケーション能力を高めよう。
- 持続** 可能な事業を確立するために、プロ意識を持とう。
- 独創** センスとデザイン力を高め、全国展開しよう。
- 開拓** 精神で挑戦し続ければ、道は拓く。
- 共感** できる仲間を増やして、時間を楽しく過ごそう。
- 強気** でめげずに、元気で明るく、前向きにいこう。

少しでも被災地の復興、そして南三陸町の皆さんの
生活の復興をお祈りしています。

京都府在住 男性

これから拓く未来に、オオバス君との出会いが
糧に、なってくれればいいなと、思っています。

静岡県在住 女性

皆様の笑顔が私たちの
幸せでありまうように...

福岡県在住 女性



TakaTaka笑、見えてるから一歩ずつ、私も出来る
前から前向きに歩いて行きます。

広島県在住 男性



震災後、被災地（南三陸町）を元気にすることを目的に町内外のイベントに参加しているオクトパス君。
赤く、まん丸な見た目はイベント各地で見る人をくぎ付けにして来ました。これまでのオクトパス君の主な活動をご紹介します。

工房ではオクトパス君が南三陸町内のお店・団体を訪ね歩くプチ旅番組“オクトパス君がゆく!ゆるシャキの旅in南三陸町”を
YouTube上にアップしています。これまでの配信動画をご紹介します。

2012

- 7月南三陸町福興市参加。
- 9月南三陸町BRT開通式参加。
- 10月登米市登米・南三陸Festival（食品販売店）イベント参加。
南三陸町志津川保育所イベント、仙台放送ジュニ君と共演。
- 11月仙台市福興市（仙台会場）参加。
- 12月南三陸町さんさん商店街イベント参加。
仙台市幼稚園イベント参加。
南三陸町あさひ幼稚園イベント、くまモンと共演。
仙台市仙台国際ハーフマラソン参加。
仙台市ミヤギテレビ撮影、出演。
気仙沼市気仙沼復興商店街1周年記念、イベント参加。



◀ 2012年9月 BRT開通式

2013

- 1月南三陸町志津川警察署110番の日 イベント参加。
宮城県警みやぎくんと共演。
気仙沼市気仙沼紫市場 イベント参加。
- 2月南三陸町ホテル観洋 イベント参加。
- 3月東京東京駅伝参加。
- 5月仙台市東北放送撮影、出演。
- 6月登米市イオンタウン佐沼 イベント参加。
石巻市ご当地キャラグランプリin石巻参加。
- 7月仙台市東北放送撮影、出演。
南三陸町インド学生交流 イベント参加。
南三陸町全国子ども連合会交流参加。
南三陸町福興市参加。
東京フジテレビ イベント参加。
南三陸町ホテル観洋 イベント参加。
南三陸町1000kmマラソン参加。
- 8月南三陸町ふなっしー交流イベント、共演。
南三陸町盆踊り（さんさん商店街）参加。
- 9月南三陸町森林保全クレジット調印式参加。
南三陸町ペイサイドアリーナ音楽祭参加。
南三陸町入谷八幡神社例大祭参加。
南三陸町さんさん商店街 イベント参加。
南三陸町くまもとから元気をプロジェクト、くまモンと共演。

- 11月南三陸町ひこころの里秋まつり参加。
南三陸町さけまつり福興市参加。
- 南三陸町仙台89ERS交流戦参加。



◀ 2013年3月 東京駅伝

2014

- 1月南三陸町伊里前保育所 イベント参加。
南三陸町歌津音楽交流会参加。
南三陸町寒鰯まつり福興市参加。
- 3月南三陸町ひこころの里 イベント参加。
徳島県物産会参加。
- 4月仙台市コボスタ宮城 イベント参加。
登米市東北風土マラソン参加。
登米市横山不動尊 イベント参加。
仙台市仙台スタジアム イベント参加。
- 5月南三陸町志津川小学校 イベント参加。
南三陸町伊里前しろうおまつり参加。
南三陸町いりやど交流会参加。
南三陸町田東山つつじまつり福興市参加。
南三陸町交通安全運動参加。
- 6月仙台市杜の都kidsウォークラリー参加。
南三陸町東北観光親善大使来訪 イベント参加。
石巻市市内練り歩き参加。
南三陸町平成の森 イベント参加。
- 7月岩手県F-1グランプリ参加。
南三陸町おかあさんといっしょ 出演。
南三陸町夏まつり福興市参加。
- 8月仙台市夢メッセみやぎ イベント参加。
南三陸町かがり火まつり福興市参加。
- 9月南三陸町ツール・ド・東北2014参加。
南三陸町交通安全運動参加。
- 10月南三陸町被災者交流サロン参加。



◀ 2014年4月 東北風土マラソン

2013

- 6月第0話しゅっぱつえんき
- 7月第1話ほんとにしゅっぱつ
- 第2話さんさん商店街（南三陸町観光協会みなみな屋）
- 番外編宮城県ご当地キャラクター大集合
- 第3話さんさん商店街（わたや）
- 第4話さんさん商店街（フレンズ）
- 第5話さんさん商店街（花の店あん）
- 第6話さんさん商店街（フレッシュミート佐利）
- 第7話さんさん商店街（及善蒲鉾店）
- 番外編宮城県ご当地キャラグランプリ2013in石巻・前編
- 番外編宮城県ご当地キャラグランプリ2013in石巻・後編
- 第8話さんさん商店街（豊楽食堂）
- 第9話さんさん商店街（季節料理 志のや）
- 第10話うに丼・さんさん商店街（松原食堂）
- 番外編南三陸町ふるさと学習会（南三陸町復興推進ネットワーク）
- 第11話電気屋 遊電館
- 番外編南三陸町大（メガ）盆踊り大会
- 番外編八幡川かがり火福興市・南三陸夢メッセージ花火2013
- 番外編南三陸町夢メッセージ花火2013 ～未来に“つなぐ”夏～
（大森創作太鼓）
- 9月番外編養殖・漁業体験・ボランティアin歌津（金比羅丸）
- 第12話公立南三陸診療所
- 番外編ドコモダケとオクトパス君の交流！
- 番外編南三陸おらほの学園祭インタビュー
- 番外編ふなっしーと一緒に梨汁ブシャー!オクトパス君もタコ汁ブシャー！
- 番外編シルクスクリーンTシャツ作り
- 番外編ゆるキャラグランプリ2013記者会見オクトパス君出馬表明
- 番外編ホームシックオクトパス君inサンオーレそではま
- 番外編オクトパス君がただ浜辺を走っている動画
- 第13話おおもり食堂
- 第14話入谷ひがし幼児園
- 番外編オクトパス君サプライズ誕生日パーティ！
- 第15話南三陸町消防署
- 第16話2013年南三陸町入谷八幡神社例大祭・入谷打囃子
- 番外編くまモンが南三陸町にまた、遊びに来てくれたモンでチュー！

- 11月第17話ハロウィンマリンパル！（託児所マリンパル）
- 番外編明社レンジャー
- 番外編恋するフォーチュン・クッキー オクトパス君バージョン
- 番外編宮城県南三陸町のサケの遡上（いくら）
- 番外編鮭の追い込み漁
- 12月第18話及川水産分店
- 番外編幸せを招く「オクトパス君貯金ダコ」招多幸
- 番外編オクトパス君ものがたり☆紙芝居
- 番外編埼玉ブロンコスvs仙台89ERS
- 番外編オクトパス君からメリークリスマス！
- 番外編南三陸復興ダコの会の紹介PV



2014

- 1月番外編新春のご挨拶in南三陸入谷八幡神社
- 番外編未知ノ国守ダッチャーショー
- 番外編南三陸町歌津音楽交流会
- 2月番外編110番の日in歌津地区伊里前保育所
- 番外編スズメバチの巣に、スズメが巣を作りました
- 3月番外編ゆるシャキの旅思い出スライドショー
- 4月第19話伊里前復興商店街 南三陸観光協会
- 第20話伊里前商店街 佐藤酒店
- 5月第21話南三陸まなびの里いりやど
- 番外編伊里前しろうおまつりin伊里前福幸商店街
- 6月番外編田東山つつじ福興市in南三陸町歌津
- 番外編交通安全運動in南三陸町歌津地区
- 7月第22話マルセン（水産加工会社）
- 8月第23話ハイムメアーズ（介護老人保健施設）
- 番外編Pharrell Williams - HAPPY（OCTOPUS-KUN, Japan）
- 第24話のぞみ福祉作業所in南三陸町
- 9月第25話行場商店（水産加工会社）震災の記憶ロングインタビュー
- 第25-2話行場商店（水産加工会社）銀鮭加工の流れ
- 10月番外編オクトパス君5歳の誕生日



◀ 10月8日はオクトパス君の誕生日October！

70000

主力商品であります「ゆめ多幸鎮オクトパス君」は、発売以来、応援の風を受けながら、全国の大勢の方々から購入していただいております。おかげさまで売上7万個を突破し、大きくネットワークが広がっていることをありがたく実感しています。それを受けて当会では、売り上げの一部を災害復興寄付として被災3県（岩手、宮城、福島）と南三陸町に寄付しています。また、日本私立学校振興・共済事業団などにも寄付しており、合計8,270,000円になります。その他、オクトパス君商標使用料として、南三陸町観光協会に1,680,000円を支払っております。



YES工房の社会的役割について

CASE
1

地元の若手 編

地域の観光振興に取り組んでいる千葉さんと、南三陸町の物産を紹介しているネットショッピングサイトを運営している伊藤さん。
地元で生まれ、今も地元で働く若い人に、YES 工房の社会的役割について聞いてみました。



「オクトパス君というシンボルがなければ、ただの『何か作っている団体』で終わっていた」 伊藤さん

大森 伊藤さんから見て、YES 工房が社会に貢献していると感じる点があればお聞かせください。

伊藤 すごいと思うのは雇用を作っているところですね。あの人数で、あの早い時期から（工房は震災発生後の5月から、3名でスタート。その後雇用人数は延べ22名にのぼる）。そこは本当にすごいと思います。

あとは発信力ですね。自分は震災後にオクトパス君の事を知ったんですけど、ニュースに取り上げられたりして、全国的に南三陸っていうものが知れ渡ったと思うんですね。

大森 オクトパス君というシンボルがあったからうまく情報発信できたのではないか、という？

伊藤 そうですね。シンボルが無ければ、ただの何か作ってる団体で終わったと思うんですけど、象徴的な存在があったから良かったのかな、と思います。

大森 南三陸復興ダコの会は震災後、文鎮作りの再開からスタートして、今の形態になったのは2012年の7月くらいからなんです。着ぐるみのデビューもそのくらいで。

当時はまだ震災後の大変な時期で、そんな中でオクトパス君の着ぐるみでの活動は不謹慎ではないかと意見も出ました。工房内でも様々な葛藤があったんです。でも、情報発信するにはインパクトあるシンボルが必要だということで、「ご当地キャラ」、「かわいらしさ」を前面に押し出した着ぐるみでの展開を始めたんですけど、結果としてそれがうまくハマリ南三陸町のPRにつながったのかもしれないですね。

千葉 私の場合も震災後、オクトパス君の存在を知りました。文鎮等のグッズを作っているという事は知っていましたが、たくさん雇用があるとは思ってなかったんですね。それが仕事で工房にお邪魔するようになって、多くの方が働いているのを知って。中学校（廃校になった入谷中学校）の校舎を利用してあの人数で働けるというのは、町にとって本当に大事なことというかな必要なことだと思います。

「他の商店とのコラボを。集客への期待値は高い」 千葉さん

千葉 あとはやっぱりオクトパス君は、宣伝PR には本当にもってこいなんです。

大森 そこをぜひ聞きたかったんですね。観光協会さんは物産市などの町内外でのイベントに参加されますよね？着ぐるみが、集客に貢献してる部分は多少なりともあるんでしょうか？

千葉 多少どころか大きく貢献してもらってます。場所にもよりますが、例えば駅などの多くの方が通行する公共の場所での物産イベントだと、足を止めてもらうというのは、実はなかなか難しいんですね。

大森 駅などは何もなくてもお客さんが流れてくるので、販売も簡単そうなイメージですが…

千葉 実際は、難しいんですよ。目は止まるんですけど、足までは止めてもらえないという。でもオクトパス君（着ぐるみ）が場にいることで、雰囲気や和んで明るくなったりするんです。人が集まるところに入って集まるので、人の輪ができてくる。会場全体が盛り上がってくれば、自然と商品の方にも意識が向いて、買ってもらえたり、っていうこともあるんですね。なによりタコがモチーフなので、名産がタコですよっていうことを伝えやすいし、「だからタコ売ってるのね、じゃあ、せっかくだから買おうか」という流れになります。

大森 オクトパス君がいることで、販売につながるということですね。

千葉 ちょうどマルセンさん（南三陸さんさん商店街「鮮魚のマルセン」）で、たこ天ありますよね？パッケージにオクトパス君を入れることを提案したら、マルセンさんもじゃあぜひって。たぶん他の商店さんも、自社商品とコラボしたりとか、オクトパス君への期待値ってあると思うんですよ。

私たちの観光協会としても、例えばタ方のローカル番組に出演するときとか、人だけ行くよりもオクトパス君がいてくれた方がインパクトが強いし、皆さんの印象にも残るので、すごくありがたいですね。キャラクターがいるからやれることとか、緩和されてる部分っていうのはすごくあると思うんですね。



司会
YES工房・南三陸復興ダコの会
広報・デザイナー 大森文広
ms-octopus.jp



南三陸町観光協会
千葉裕美 さん
www.m-kankou.jp



南三陸町 de お買い物
運営者 伊藤孝浩 さん
www.odette-shop.com

「南三陸に来ました、ってことがひと目で分かるおみやげ・商品を作ってほしい」 千葉さん

大森 ここもうちよつと工夫すれば工房の活動が広がるのでは？というところがあればご意見を頂きたいと思います。

伊藤 やはりもっと積極的に、町の方とコラボして行くべきだと思います。

大森 そこが弱いですかね？

町からの期待はあるということでしょうか？

伊藤 あると思いますね。

千葉 先ほどのマルセンさんの話もありましたが、飲食店とのコラボがあってもいいのかなって。よく町外とか、観光協会がやっている「みなみな屋」っていうお店で、『南三陸町に来ました』って一目でわかる商品ないですか？って言われるんですよ。例えば東京なら「東京ばなな」みたいに地名が入っていて「東京のお菓子」というのが一目でわかる。南三陸町のお土産ってわかるものが欲しいと言われた時に、確かにあまりないっていう。南三陸町ってパッケージに入っている商品って意外に少ないんですね。だから例えばそのパッケージの部分にオクトパス君が入るとか、タコのシーズンになったら魚屋さんがオクトパス君のイラスト入りのノボリを共通で掲げて、「タコ入りました」ってやるとか。そういう町の商品とのコラボっていうのは町や商店の活性化にもなりますし、認知度も高くなっていくのかなっていう。相乗効果で。

大森 なるほど、そういう意味ではうちがちょっと遠慮してる部分があったかもしれないですね。片想いだと思ってきたら両想いだったみたいな思いです（笑）。

千葉 今回復興市の特別バージョンのバッジを作っていましたよね？「復興市」って書いてあるバッジ。かわいくて！復興市の全スタッフがつけてたらそれだけでも結構いいですよ。

大森 あれって喜んでくれました？

千葉 みんなで、もう。取り合いになるんじゃないかってくらいで。

大森 今のお話の流れで町の方々への猛烈アピールが必要

だと感じました。

「南三陸の食べ物以外の開発・発信の拠点に」 伊藤さん

大森 では最後に、お二人から見て、YES 工房ってどんな存在だと思いますか？

伊藤 南三陸の食べ物以外の開発の拠点みたいになるといかなって。南三陸町は、食べ物では魅力あるものがたくさんあるんですけど、それ以外って結構弱いんで。

大森 そういっていただけると嬉しいですね。千葉さんはいかがですか？

千葉 観光協会からすると、仲間というか。町づくり町おこしと動いてる中では、ほんとに心強い存在ですね。

大森 なるほど。工房は地域の住民の交流、雇用の場であり、南三陸町の魅力を伝える場になって行きたいという思いがあったので、お二人との話の中で、今後そうなっていけるように頑張っていきたいと思いました！

今日はありがとうございました。



YES工房の社会的役割について

CASE
2

地域外の協力者 編

復旧活動の時期に関わりが始まった村井さんと安藤さん、その後の復興活動の時期に関わりが始まった佐藤さんとタナカさん。
復旧、復興とYES工房に関わる時期が異なる4人の方に、YES工房の社会的役割について聞いてみました。



「それぞれの在り方の中で挑戦を積み重ねている」 村井さん

佐藤 村井さん、まずは、工房を離れてみて、改めて感じたことはありますか？

村井 外の立場から見て感じたのは、やはり「挑戦の場」になっているということですね。20代、30代の若い人がリターンして来て、作業はお母さんたちが担当しているけど、事務的な部分とかデザインとか、そういうところで輝いているというのはすごく重要だと思うんです。

それに、例えば初期の頃、工房のお母さんたちはパソコン使えなかったんですね。だけど若い男の子がみんなに教えて。少しずつ怖くないよ怖くないよって（笑）。そうやって慣れて、今はフロンティアジャパンと毎日メールでやりとりしたり、東京と工房で毎朝スカイプミーティングしてるんです。

学ぶのが挑戦なら、教えるのも挑戦ですよ。それぞれがそれぞれの在り方の中で挑戦を積み重ねて、どんどんいい形に成長してきていると感じます。

タナカ 「挑戦」てことに対して、自分が東京で仕事していて、非常に危機感があるんだよね。企業や組織では失敗できないというか、失敗を受け入れることが下手になってきていて、だから怖がって挑戦しない。まずはリスク回避とか、納得できる資料集めだとかに時間が取られて動きが重くなってしまう。

YES工房が東京から見ても魅力なのは、まずやろう、動こうという瞬発力とスピード感、やってみて良くないところがあったら改善を繰り返していける環境だと思うんです。そこには当然、前例のない災害で何もかもなくなって、とにかく何かやらなきゃ進まないという実情はある。前はどうだったこうだったって言う場合じゃなくて、まずは動け、という。でもそういう現実を乗り越えて、新しい事例というかが在り方のモデルになっているという気がします。

村井 地域の人達の盛り上げ役という意味合いもありますよね。特に最初は落ち込みがちだったのを、あんなことやろう、こんなこともやってみよう、やっていいんだって、YES工房が率先して変なこととかおかしいことをやってみて、既成事実を作っちゃう。それで自分たちも元気になるし、周りも「工

房で楽しそうなことやってる」って伝播していく。

佐藤 確かに、ちょっと道化的な立ち位置を意識してきたところはあるですね。震災直後にオクトパス君とかいいのになって思っても、やっちゃう。そうすると周りも、楽しくてもいいんだ、笑ってもいいんだってなって。ちょっと救われるというか、前を向く最初のきっかけになったというか。

タナカ そういう意味では、地元にとってはまさしく、オクトパス君とYES工房が復興と再生のシンボルなんだよね。

「官とか民とか公とか、既成の括りにとらわれず、工房なりの役立ち方を進化させてほしい」 タナカさん

村井 工房は、うまく人を巻き込みながら進んできてますよね。日本中から視察でたくさん人が来て、特に立ち上げ直後は震災後ということもあって、中にはアポ無しの人たちもいるわけで、納期もあるのに通常業務が進まない。でもみんな、良かれと思って来てくれてることがわかっているから、そのとき目の前にいる人に、心をこめて、何度でも同じ説明ができれば、その人たちがファンになってくれて、巻き込まれてくれる。ファンになってくれた人たちが、つながりながら物事を動かしているって。工房がハブって言ったらい過ぎかもしれないけど、そういう物事の中心になっているんじゃないかと。

安藤 被災地という一度ゼロになったところから立ち上がって行くプロセスを、YES工房は初期の頃から発信していますよね。マスコミに取り上げられたというもあるけど、やはり自ら発信を続けてきたというのは大きいと思います。だからこそプロセスを追うことができる。その上で工房に行けば、商品があってそれを作っているお母さんたちがいる。プロセスと現場と成果物を、一貫した流れの中で見るができることが、震災4年目になっても視察が絶えない理由なんじゃないかな。

タナカ 工房にはいろんな世代の人がいるけど、お母さんたちも若い世代も学生も、世代間の断絶がないというか、ギャップを楽しんでるよね。世代を超えて交流できる場があるのはいいことだし大事だよね。世の中の縮図みたいなものだから。



YES工房・KAIDANSTUDIO
ディレクター
佐藤孝範 さん



フロンティアジャパン(株)
営業
村井香月 さん



DESIGN ARCHITECTS主宰
クリエイティブ・ディレクター
タナカヒロキ さん



大正大学
職員
安藤仁美 さん

それに、どんな人でも思いが強ければ大丈夫、大歓迎ということを実感・実現できるっていう、そういうオープンで、受け入れられる社会のモデルケースになって欲しいなど。

村井 他の企業とか地域で感じるのは「閉塞感」なんですよ。過疎化していると言われる地域でも、内側に向かって閉じていく感じがあると思うんです。

地域だとか企業に限らず、オープンであることや、内外からの変化を受け入れることというのは、実はとてもハードルが高いことなんですよ。

タナカ 被災地の課題は被災地だけの問題ではないと言われるよね。他の地方も抱えている課題が、30年、50年前倒しで来ているだけ、という。いずれ同じことが日本中で起こる、だからこそ、先んじて課題を打破していくモデルとして、工房には重要な意味がある。

変化を受け入れられる、あるいは自ら変化していける意義は大きいですよ。

安藤 YES工房は「こんな仕事するから、あれができる人を入れる」ではなく、「この人がいるからあんな仕事もできるんじゃないか」って仕事の幅を広げて来ましたよね。それって現代の企業の在り方とはちょっと違うんですね。でも組織とかコミュニティの原始的な姿はそうだったと思うんです。失敗って、ある意味「無駄」ですよ。生産性を上げることはもちろん素晴らしいんですけど、それを求めすぎると反動が来て、本来その人が持っている創造性というか、可能性の芽を摘んでいくことになるんじゃないかと思うんです。

でも工房には、失敗を恐れず、無駄を受け止める余白、厚みがあると思うんですよ。だからこそ地域の中で人が育てられて、将来的な地域の力の底上げにつながっていけるんじゃないかと。

タナカ 果たして仕事とはなんぞや？ってすごく悩んだ時期があって。松下幸之助が「企業とは社会の公器」って言っているでしょう。すなわち、会社とは世の中のためにある、共にあるということなんですよ。では仕事はなんなのかというと、「社会との関わり方」、あるいは「社会への役立ち方」そのもの、と言い換えてもいいと思う。

社会の役に立つという見方なら、官でも公でも民でも関係な

い。組織を企業とかお役所とかカテゴライズする必要がない。YES工房もそういう既成の括りにとらわれない組織だよ。

「応援してもらうために頑張る、応援してもらえるから進める。その繰り返しを原動力になる」 安藤さん

安藤 「社会へのお役に立ち方」という言葉がすごくしっくりきました。私フルマラソンやるんですけど、42キロ走るのには本当にしんどいんですよ。自分との戦いだったら絶対負ける。では何がモチベーションになるかというと、沿道の全然知らない人の応援なんですよ。自分の前を行くランナーを3時間とか応援し続けて、手を振るのもしんどいはずですよ。でも手を振ってほしいから笑顔で走るし、走りきれちゃう。「受援力」という言葉もよく使われるけど、応援してもらうために頑張る、応援してもらえるから進めるっていう、その繰り返しが原動力になってるんですね。

YES工房の本質も実は同じで、社会に示しているのはそれではないかと。それがいちばん大事な役割じゃないかと思います。

タナカ 僕もやっぱり、応援したいから南三陸に来ちゃうってところあるよね。今の時代、応援する側の気持ちというか、応援することの価値って、すごく大きいと思うんですよ。誰かを応援すると応援される側が応えてくれる。その循環の中で、社会のお役に立ちながら社会に認められている実感を得る。励まされる。自分の存在意義を確認できる。背中を押される。応援しているつもりが応援されてた、みたいな。

安藤 貨幣の交換ではなく、思いの交換というか、応援の交換ということでしょうか。

佐藤 なるほど。コミュニケーションツールみたいな言葉には違和感があったけど、「交換」というのはいいですね。コミュニケーションの交換の場と置き換えてみたんですけど、すごく納得できました。

ありがとうございました。

YES工房の社会的役割について

工房内で働く人 編

震災後の復旧早期から南三陸町はYES工房内に活動拠点を設けられた額賀さん。
実際に南三陸町でお仕事をしている立場からYES工房の社会的役割について聞いてみました。



フロンティアジャパン株式会社
代表 額賀泰尾 さん
www.eco-pro.ne.jp

—どういった縁で南三陸で事業を行いましたか？

もともと福井県鯖江市に工場があり、国産材のグッズを作っていました。生産高も売り上げも順調だった矢先に震災があり、何かできないかという思いで南三陸に入ったんです。その時はこの状況では何もできないと感じて東京に帰ったんです。そうしたらその年の11月ぐらいにふと天からアイディアが湧いてきたというか。新しい工場を南三陸町に作り、現地の人の雇用になればと考えたんです。そこがきっかけでしたね。様々なつてで気仙沼や福島を訪問したなかで、南三陸はすごい受援力だったというか、受け入れをしてもらえたところなんですよ。

—工場を作って、南三陸でやっていく意義というのを何か見出していたのでしょうか？

僕は日本の国産材を使用するのが事業の主体で、そこを外してはいけないというのがありました。南三陸の木材は、全国の材と比べてもかなり品質がよく、加工しやすいのが非常に魅力的です。今は鯖江の工場も一部使っていますけど、将来的には南三陸で取れた材料は全てここで製材・乾燥して、製造物にして納品するというような、外に出さないような工場体制を作っていきたい。インフラが整っていない部分は難しいですが、それが理想です。

—フロンティアジャパンさんから見て、YES工房ってどう思われますか？

一番初めにタコの会を見たとき、田舎なのに最先端なことをしているなという印象がありました。手で色を塗るというのは非常に昔ながらな作業ですけど、商品を一から企画し、世の中に出していくのが製造業者はできないんです。作るのはいくらでも出来るけれども、販売網がない、手法がわからない。その点製造から販売まで一貫して自分たちで行っているのはすごいと思いました。販路を地元から外にむけて発信して、オクトパス君がゆるキャラのトップになるのもいいし、企業とタイアップして企画ものでもっていかとか。「置くとパスする」とか、東京の方でやることでピンとくる人もいっぱいいると思う

んですよ。だから市場的にはすごく面白い。メディアの露出の仕方とか、僕自身勉強になったことも多々ありますし、そういったところも含めて、モノを売ることに対して非常に積極的な団体だなという風に感じております。

—YES工房がこの町に存在している意義は何でしょうか？

南三陸町は非常にコンパクトな町ですよ。だからYES工房が中心でいろんなところに発信していると思うんですが、そこがいいところかなと思っています。最近お土産屋さんに行くと、ここのやり方が真似されているような気がするんです。けど、真似っていうのは良いんですよ。競争を作ることで、市場価値が上がるんです。商品だけでなく、町の観光や良さを新しく発信していくという立場で、町の中心となっていけばいいと思うんです。

—これからについて思っていることはありますか？

南三陸に来た以上、10年20年、50年先もこの町に関わりたいたいと思っています。関わり方というのも、やっぱり僕はモノづくりの人間なので、この地域の素材を使って色々な生産物を作っていきたいです。例えば木のスプーンなどの日用品を地元の材で作って、日本とか全世界に売り込めるような工場を作りたいなって思っているんです。何十年と経って、「なぜ南三陸なんですか、きっかけは何だったんですか」と聞かれたときに今のような生い立ちを語れるような。そんなインタビューが来るような体制に30年後くらいになればいいんじゃないかなって最近すごく思うんですよ。そこまでやるためには物を売らなきゃいけないし、それだけの人数を雇用していないといけないので、その間に関わるうちの営業の人も頑張らないといけないし。だから1年先2年先のことはそんなに僕は考えてなくて、もっと先のことを今考えています。

—ありがとうございました。

PARTNER'S
COMMENTS

未来の種プロジェクト、右腕派遣（人材支援）、グッズ販売、助成金、人材育成。
工房立ち上げ当初よりさまざまな面で企業団体様にご支援いただきました。
それぞれの支援プロジェクトで中心として活躍している担当者の方からコメントをいただきました。

株式会社 NTT ドコモ
古澤 孝 さん www.nttdocomo.co.jp

NTT
docomo

工房内に掲示されてある『YES工房8つの心得』を目にしました。「感謝、笑顔、交流、持続、創造、開拓、共感、強気」です。復興の仕事に従事する私達にとって目からウロコで、復興・まち興しのヒントはこの8つの心得に凝縮していると思いました。重要なのは、震災前に戻すことではなく、生活する人が地元に着着をもてる魅力的なまちづくりだと思います。YES工房は、地域の特性を活かしながら魅力的なまちづくりへの取組を行っており、復興・まち興しのモデルになっていると思います。

アマタグループ
櫛田 豊久 さん www.amita-hd.co.jp

AMITA

YES工房の地域への貢献として以下の4点を感じています。①地域雇用、②南三陸町知名度アップへの貢献、③情報発信拠点、④人と人の交流拠点としての役割。具体的事業の旗を立てることで、人や情報が集まる依り代になっているのだと思いました。今後もこのようにして集まってきた縁を結集して、無念にも亡くなられた方々のためにも後世に誇れるふるさとを残す新しい町づくりの中心として頑張っていきたいと思います。AMITAも南三陸の未来のために共に頑張らせていただきます。

特定非営利活動法人エティック
山内 亮太 さん www.etic.or.jp



2011年の4月に阿部さんとお会いしたことがきっかけでした。夏にETICの右腕派遣プログラムを通じて人材を派遣させていただきました。被災後の南三陸町を元気に明るく支えてこられた存在だと感じています。地域経済的に見ても、南三陸に存在する地域資源を活かして仕事を生み出すスピーディーな実験場としての役割は町全体にとっても大きな可能性を秘めていると思います。これからも入谷から太陽のように南三陸全体を照らすYES工房であり続けていただきたいと思います。

株式会社電通
阪中 真理 さん www.dentsu.co.jp

dentsu

ETIC.さんから「南三陸町に魅力的な方がいる」とご紹介いただき、YES工房で阿部さんと初めてお会いしたのは2012年の5月。被災からすぐに「何か手を動かすことの必要性」を感じて20人の雇用を生み出し、アイデアを駆使してどんどん活動を広げる実行力、無敵の笑顔とダジャレで温かい地域コミュニティをつくる人間力には、いつも感服しています。YES工房が、南三陸町と外の人や団体・企業との強力なハブとなり、これまでにない取り組みが生まれることを期待しています。

（一社）登米市観光物産協会
梅田 恵美 さん www.tome-city.com



私たちから見る工房は、企画製造から販売まで非常に積極的に前向きな事業展開をされていると思います。また、商品開発については非常に勉強になり、今後も見習っていきたく思っています。また、南三陸町民の雇用の拡大、オクトパス君やグッズによる南三陸町のPRや交流人口拡大に大きく貢献していると思います。今後のご活躍、楽しみにしております。

三菱商事株式会社
勝俣 麻理 さん www.mitsubishicorp.com

三菱商事

YES工房との出会いは、東日本大震災から約半年後、南三陸で社員ボランティア派遣先を模索している時のことでした。YES工房の活動内容を知り、ゆるきゃらの『オクトパス君』を通じた町興しに賛同して助成し、翌年には『タコせんべい』の商品開発も支援しました。その後、学べる工房創設など人材育成にも力を注いでおり、南三陸の将来を見据え、さまざまなアイディアを生み出しかたたちにしていけるYES工房は、重要な社会的役割を果たしていると感じています。



工房来訪者数

2011年 7月 - 12月

3,300名

2012年 1月 - 12月

3,800名

2013年 1月 - 12月

2,700名

2014年 1月 - 10月

1,800名

INFORMATION DESK



tako@ms-octopus.jp



0226-46-5153

平日 9:00-17:00 土・日 9:00-15:00

—— 個人のお客様へ ——

工房見学

昔の木造校舎が、リノベーションされ、今は「地域の人」が集い、「働く場」になっています。これまでの歩みを紹介しながら工房内をご案内します。団体でお越しの場合、事前にお申込みください。

工房モノづくり体験

工房では、オクトパス君の色塗り体験やまゆ細工、南三陸の間伐材を使用したオリジナル絵馬づくりなど、小さいお子さまから大人まで幅広く楽しめるモノづくり体験ができます。事前にお申込みください。

—— 企業・団体のお客様へ ——

記念品・オリジナルグッズ製作

レーザー加工による木製品や名札、サンドブラスト加工の彫刻などによる、オリジナルグッズの製作を承ります。デザイン・入稿方法、製作期間などは内容により対応致します。まずはお気軽にご相談ください。

オクトパス君のイベント参加

まんまる大きなオクトパス君は、子どもから大人まで大人気で、南三陸町の観光PR活動に積極的に参加しています。町内外の多くの方々と交流、ふれあいを通し、地域の魅力を発信するお手伝いとしてご活用ください。

工房商品の販売・取り扱い

県内外の東北復興応援イベントや企画展示などで工房商品を取り扱っていただき、好評を博しています。被災地に関心をもつ全国の方々と被災地を繋ぐ架け橋として、南三陸から商品をお届けしていくことを目指しています。

企業、アーティストとのコラボ商品開発

企業・団体の方、アーティストの方々とオリジナル・コラボ商品の開発も行っています。コラボレーションによる双方の活動のPRは、工房の活動拡大や情報発信に欠かせない大きな役割を担っています。